

科目名	計測工学		英文表記	Electronics metrology		2013/2/14	
科目コード	3214						
教員名:比嘉勝也 技術職員名:						作成	
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間	
情報通信システム工学科	3年	必	履修	2単位	講義	通年	
科目目標	計測工学では電気工学・電子工学における計測についての基礎的な理論を理解し、計測で得られたデータの処理・信号処理についての基本的な方法を理解し説明できるようにすることを目標とする。						
総合評価	前期・後期評価:定期試験(中間・期末)の平均の80%+学習達成度チェック20% 学年末評価は前期評価と後期評価の平均で行い、60%以上を合格とする。						
科目目標 達成度と JABEE目 標との対 応	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)			達成度目標の評価方法		目標割合	
	①	電気電子分野における計測技術の基本原 理や動作、基礎的な回路理論を理解し説 明できるようにする。		⇒	正しく説明できるか定期試験および 講義での小テストで評価する。		80%
	②	データの処理方法についての理解し説明で きるようにする。		⇒	正しく計算できるか定期試験および 講義での小テストで評価する。		20%
				⇒			
本科・専攻科 教育目標	1	2	3	4			
	○		◎				
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・ 発表・実技・成果物 等)	総合評価	セルフチェック
評価項目		80	20	0	0	100	
基礎的理解	1, 3	40	10			50	
応用力(実践・専門・融合)	1, 3	40	5			45	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)						0	
主体的・継続的学修意欲	1, 3		5			5	
授業概 要、方針、 履修上の 注意	私たちの生活の様々な所で様々な計測が行われ、そのデータがデジタル信号などに変換されて利用されている。計測工学では、“正しく計測”，“意味のあるデータ処理”の基本的な原理方法について講義を行い、“計測する”という工学にとって基本的で勝つ重要なことについて理解を深めてもらうことを目的とする。						
教科書・ 教材	1. 電気・電子計測入門, 中本高道, 実教出版 2. 自作資料・学習達成度チェック(自作)(講義後, 毎回行う)						

授 業 計 画

週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェッ ク
1	計測とは	2	計測の考え方について・センサー		
2	測定誤差	2	測定誤差の原因について		
3	統計的処理	2	統計的なデータ処理(平均値・標準偏差)について		
4	最小二乗法	2	最小二乗法(一次式)の計算方法について		
5	誤差の伝搬・有効数字	2	誤差の伝搬の考え方と有効数字の扱いについて		
6	dB計算	2	dB(デシベル)の計算方法について		
7	SN比と雑音指数	2	SN比と雑音指数の意味・計算方法について		
8	中間試験	2	これまで学んだ範囲で試験を行う。		
9	試験返却・問題解説	2	試験内容の解説を行う。		
10	雑音	2	雑音の発生について		
11	OPアンプ	2	OPアンプ回路について		
12	内部抵抗	2	内部抵抗・入出カインピーダンスの影響について		
13	周波数変換とフィルタ	2	周波数変化およびフィルタ(LPF, HPF, BPF)について		
14	SSG	2	標準信号発生器について		
15	ロックイン測定	2	ロックイン測定構成について		
期末	前期末試験	[2]	これまで学んだ範囲で試験を行う。		
16	試験返却・問題解説	2	試験内容の解説を行う。		
17	デジタルデータ	2	2進数とASCIIコードについて		
18	A/D変換1	2	A/D変換回路について1		
19	A/D変換2	2	A/D変換回路について2		
20	D/A変換回路1	2	D/A変換回路について1		
21	D/A変換回路2	2	D/A変換回路について2		
22	デジタル伝送	2	デジタル伝送方法について		
23	中間試験	2	これまで学んだ範囲で試験を行う。		
24	試験返却・問題解説	2	試験内容の解説を行う。		
25	可動コイル・可動鉄片型メーター	2	可動コイル型・可動鉄片型メーターの構造について		
26	直流電流電圧測定	2	メーター接続・内部抵抗の影響について		
27	交流電圧電流測定	2	交流の電流電圧測定について		
28	電力測定1	2	直流電力測定について		
29	電力測定2	2	交流電力測定について		
30	抵抗・インピーダンス測定	2	抵抗インピーダンス測定方法について		
期末	後期末試験	[2]	これまで学んだ範囲で試験を行う。		
学習時間合計		60	実時間	45	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)	
①				各2時間×30回	
②				各5時間×2回	
③					
備考欄					